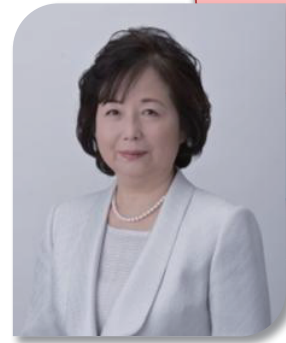


---

ごあいさつ

---



お茶の水女子大学での最近の研究情報を収めた「研究紹介集」2011-2012年度版をお届けします。

お茶の水女子大学は、1875年に国によって設置された東京女子師範学校を前身とし、優れた教育者のみならず、多くの先駆的な女性研究者を輩出してきました。元来、教育は研究と表裏をなすものであり、とくに本学ではこの点を重視して教育と研究の充実に努めています。

本学の特色の一つは、異なる領域の教員間の交流が日常的に行われていることです。それが可能なのは、教員総数が200名ほどであり、人文、社会、自然科学の多領域のスタッフが同じキャンパスで教育研究に従事していることが一因ではありますが、こうした外的環境以上に、本学構成員のそれぞれが、確かな基盤を基に新たな研究に意欲的に取り組んでいることにも起因しているように思います。

本学では基礎研究を重視し、さらに生活者の視点を意識した研究を行っていますが、生活者の視点とは、科学の研究を日常生活に活かすまでの展開の道のりを想定して研究の在り方そのものをも問う研究の視点を意味します。そのためには、研究者自身が高度な研究能力と一人の人間としての真摯な研究姿勢が求められます。

2011年3月11日の東日本大震災の甚大な被害と原子力発電所の事故を目の当たりにして、私たちは人間が自然に対していかに無力な存在であるかを思い知らされ、また、科学の探究と技術開発がどのような影響をもたらすかについて常に自覚的でなければならないことを痛感させられました。

自然を対象とする自然科学は、自然の在り様を極限まで探究することを使命としています。そして、その成果を具体的に使用可能にするのが技術です。したがって技術は、人間の生活をいかに導くのか、その方向性を意識しておくことが重要です。換言すれば、研究の成果を有用なものとするには、人間にとって豊かさとはなにか、社会の発展とは何か、という根本的な問いに向き合う姿勢が重要であると考えています。

本学の教育研究が広く社会に役立つことを願い、同時に、被災地が一日も早く復旧し、復興の途が拓けることを念願しながら、大学の役割を自覚し、日々の教育と研究に専念してまいりたいと思います。

引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年9月

国立大学法人 お茶の水女子大学長  
羽入 佐和子

---